

乾
章俊議員



○ダムの放流について ○道の駅について — 目指す経営方針、準備状況 —

そのほかの質問
・命にかかわる危険な猛暑対策について

一般質問

問 上流で豪雨が発生した場合のダムの緊急放流が心配。異常気象により想定外の豪雨が発生する危険に備えねばならない。ダムがあるから安全とする過信は禁物。九頭竜ダムはどの程度の雨量を想定して造られているのか。今後、記録的な豪雨により、ダムが満杯になった場合の緊急放流及び市、住民への周知手順はどういうものであるのか。

答 九頭竜ダムでは、ダム操作規則を定め、また計画規模を超える洪水時のダム操作要領も定めている。

さらにダムからの放流に際しても下流に対する放流通知の方法を定め、市など関係機関に通知される。計画を超えるような豪雨が発生するなどして、異常洪水時防災操作が行われる際には、関係機関に3時間前には連絡があり、連絡を受けた自治体は、今後の状況を推計し、避難勧告のタイミングを早めるなどの措置をはかる必要がある。

ダム管理演習などでこうした訓練も重ねながら、流域の住民の安全確保に努める。

問 道の駅は2年後のオープンに向けて、来年度中には建物が完成する。建物の準備は進んでいるが、肝心の経営方針や体制、目指すコンセプト、マネージメント、生産者の育成や連携等の諸準備状況については見えてこなく懸念している。時間が無い状況を尋ねる。

答 道の駅全体のマネージメントは指定管理者が行うことになるが、「勝山市道の駅基本計画」に定める「人が集い出合い交流し地域に広げる」をコンセプトとする基本方針の遵守を協定書に明記する。現時点では「勝山市観光まちづくり株式会社」を指定管理者として運営委託する方針であり、必要な機材、備品等について来年度の予算化を予定している。また、運営計画もまちづくり会社と協議し、今年度中に策定予定である。

生産者の技術向上を図るため、県、JAに協力をいただくとともに、生産者の道の駅への参画意欲が高まるような制度設計と環境整備に努める。オープンに向け、まちづくり会社と市内農林水産物生産者や商業者などの関係者と連携しながら準備を進める。

下道恵子議員



○介護人材不足について ○病児・病後児保育料金について

そのほかの質問
・迷惑電話対策について

一般質問

問 介護を必要とする方が増えてきている一方で、介護人材不足が叫ばれている。市では「介護人材確保奨励金」という条件付きの補助制度を設けたが、活用事例はあるのか。また、厚生労働省は「介護福祉士資格」を取得した留学生に対する在留資格に「介護」を創設。平成29年9月から施行した。今後、やる気のある留学生を、勝山市に呼び、施設に従事してもらうことを検討しないか市の見解を伺う。

答 平成29年度から「介護人材緊急確保奨励金交付事業」を実施し、介護保険事業所の人材確保を支援している。平成29年度の実績は4件、平成30年度は現在、申請がない。外国人技能実習制度は、技能、技術または知識の開発途上国等への移転を図り、その開発途上国等の経済発展を担う「人づくり」に協力することを目指すものである。人材確保にどの程度期待できるか不透明であるので、今後の動向を注視しどのように活用できるか検討する。

問 保育園児や小学校の児童が病気で休むことを休めない家庭のために病児・病後児保育がある。勝山市は副食・おやつ代込みで1日2000円の利用料となっている。2日も3日も預けるには少し負担がかかるのではないだろうか。市内の市町を調べたところ、1日2000円、半日1000円という設定や「年間5回までの補助利用券」を出している市町があった。そこで市でも「半日料金の設定」と「補助利用券の制度」を導入できないか伺う。

答 勝山市では、クリニカ・デ・ふかや内のひかり病児保育園に委託して事業を実施している。利用は事前予約制であるが、急な利用や当日キャンセルも多く、日々の利用者数の把握が難しい現状である。また、午前中半日の利用者の後に、午後半日の利用者の受入れは見込めず、施設の運営に多額の費用がかかっている中で収入減につながっているため、現時点では半日料金の設定は難しいと考える。

「補助利用券の制度」については、財政負担等を考慮しながら、十分研究する。